

21世紀はボーダーレス 世界に飛び立つ 羽を与えよう

平成7年1月17日、阪神淡路大震災の発生直後に市内を空撮した映像を覚えていらっしやいますか？ 黒煙を吹き上げて猛威を振るう火災や倒壊した建物、被災された方々の悲惨な状況。その映像の地、神戸市長田区にわたしたちの会の前身の剣道クラブがありました。積古をしていた施設も被災し、全壊しました。わたしたちの会のみならず、震災は多くの道場を容赦なく破壊しました。

当時は積古どころではなく、避難場所を確保するにも大変な状況でした。現在、積古をしている小学校の体育館にも600人を超える人びとが毛布を敷き、ダンボール箱で寒気を避けて、生活をしていました。そうしたなか、徐々に仮設住宅も整いはじめ、避難所

の役目を終えた体育館が開放されはじめたころ、その体育館の利用に尽力してくださった方がいて、震災から10ヶ月後の10月に同じ長田区で再起することができました。この移転を機に、名称も改め、会員3名から再出発しました。

**道場は楽しいこといっぱい
外国語だってへっちゃらだ**

わたしたちの会の前身は、中川敏郎先生（教士七段）が指導され、わたしがお手伝いをしていた西代剣道クラブです。中川先生は震災直後に病に倒れられ、無念にも亡くなりました。「青少年を育てる剣道」を永年実践されてきた温和な先生の想いを受け継ぐとともに、わたし自身が外国を訪れ、



積古後に行なわれている外国人との歓談会。
数ヶ国語が飛び交う中でも子どもたちは満面の笑みを浮かべている



井上朝重

（兵庫・神戸国際剣道会会長）
いのうえ・としげ／昭和21年兵庫県神戸市生まれ、60歳。昭和60年から少年指導に携わる。平成7年に阪神大震災に見舞われ、解散を余儀なくされるが、その年の10月に復活。神戸国際剣道会を立ち上げた。現在、井上建設産業株式会社取締役。剣道錬士六段。

多国籍なプロジェクトに参画した経験、異文化の中から日本を見て得たものなど、震災を境に自己反省も含め、よく考えるようになりました。そんな考えと会の設立時期と重なり、会の目的骨子に左記のような想いを入れました。
世界は、急速に狭く、近くなっています。すでに商業・経済の分野では、完全といえるほどボーダーレスになっています。今の子どもたちが社会へ果立つ近未来には、もっとスピードを加速させて変化するでしょう。近未来の社会は、職業に必要な専門知識はもちろん、国際共通語の英会話を高いレベルで駆使できる能力を求められるようになるはずです。

そこで、子どもたちが剣道を通して英語に親しめるような雰囲気づくりをしています。英語を強要して教えているわけではありません。常時、数人の外国人会員と一緒に積古をすることで、子どもたちに自然体で英語に接してもらおうようにしています。積古中に英語が耳に入ってくるイメージです。

当初、子どもたちはしどろもどろでしたが、次第に慣れ親しんでくれるようになりました。以来、子どもたちのコミュニケーション能力が高くなっている気がします。引っ込み思案だった子ども積極的に会話してくれるようになりました。積古後に行なっている外国人との歓談の輪が積古時間より長くなり、数ヶ国語が飛び交う中で、子どもたちは満面の笑みを浮かべています。

また、稽古に来ることが待ち遠しくなってきました。何事も楽しくなければ続きません。「道場にいけば面白いことがある」と思ってくれたようで、「早く稽古日が来ないかな」と感じている子どもたちが増え、稽古を休む子どもが減りました。今では言葉を話せない小学生が外国の初心者に竹刀の握り方や足さばきを指導するような場面が見られるくらいです。

このように、道場に外国文化を取り入れたことによって、子どもたちに国境はなくなっています。英語や文化を自然なかたちで興味を持つ環境を「興味を持ってくれればしめたもの」「楽しくなければつらいだけ」の気持ちで大切に作りだすことができました。子どもたちが持つ人間としての視野、心の幅を広げることができたのではないかと思います。

4つの国際事業 ペンパルプランも実施予定

わたしたちの会の剣道は、火曜と土曜日の週2回、1時間半、基本を中心に、少年も大人も混ざって、同じ内容を一緒に厳しく行なっています。開設して12年目、設立時から協力してくれ方や、遠方から通ってくれる方もいて、現在の会員数は小学生が12名と中学生以上が33名、それに賛助会員の31名を加えると計76名の会になりました。稽古の他にわたしたちの会が行なっている事業を紹介いたします。

・交換ホームステイ制度

この制度は、友好関係のある海外の剣道会と協力して行なっています。先方の会は、希望する人を（おもに青少年）を選び、旅費とお小遣いは先方負担。日本でのホームステイに関わる費用は当会負担で、2〜3ヶ月の滞在を経験するシステムです。1年ごとに交互に受け入れをする予定にしています。昨年はイギリスの青年（剣道二段、18歳）を第1回目として受け入れました。原資は、会費の中から積み立てている基金です。ホストファミリーは会員の希望者に引き受けてもらいます、今回のホストファミリー4家族と若い会員を中心にしたサポーターチームが連携して、仲良く世話をしてくれました。

・ペンパルプラン

今年、考案された新しいプランです。アメリカへ帰国して教員をしている会員が学校に日本語クラブを設け教えはじめました。「読み書きのよい教材にしたいし、有効な相互の交流にも役立つと思う」と提案を得て、日本語と英語の文通をすることにしました。このプランも小学生を中心にチームを組んで、親子で一緒に協力しながら行なってもらおう予定です。

他にも、剣道のデモンストレーション、国際学校のバザーへ参加、自然災害の被災地へ援助活動などを行なっています。お時間がありましたら、わたしたちの会のホームページをご覧ください。



神戸国際剣道会の子どもたち。さまざまな国際交流を通して剣道はもちろん、人間としての視野、心の幅を広げている
HP=<http://www.inoue-jp.com>